

幼 兒 の 教 育

昭 和 六 年 三 月

溫

溫の一字、保育の意義を盡すといふも過言であるまい。

凝つたものを解き、閉ぢたものを開き、縮んだものを伸ばし、萎びたものを張り、一切の生命を進展させる。

見よ、今、この普き溫の力を。萬物、そこに笑ひ、こゝに躍り、自らの力を樂しむ。

溫は下から湧き、上から漲る、皆自然である。野に園に溢るゝ自然である。

つくりもの、こしらへものゝ溫は、その眞の力を持たない。温室の溫は、到底自然の溫ではない。

溫の人、保育者、春は正に、あなたの、やさしくて強いはたらきを其のまゝに示してゐる。